

実践記録（小4・社会）

1 ねらい

意見交流を通して、友達のことを取り入れて自分の考えをよりよくすることができる。

2 手立て

- 複数の発電方法のメリットやデメリットを資料を基に調べ、一つのメリットやデメリットにつき1枚ずつ「資料かんたんカード」に一言でまとめる。
- 調べて得られたメリット・デメリットを基に、日本にとって一番よい発電方法を一つ選んでその理由を「考えキャッチシート」に書く。書かれた考えについて班の中で交流活動をする。最後にもう一度、自分の考えを書く。【資料】

- 左上の枠内に、最初の自分の考えを書く。
- 中央で、付箋紙を用いた意見交流を行う。
(賛成意見は青色の付箋紙、反対意見は赤色の付箋紙に書いて貼り、どの意見に対する意見か矢印でつなぐ)
- 参考にする意見を書き出す。
- 交流を終えた後の、自分の考えを書く。

資料「考えキャッチシート」の使い方

3 実践の様子

はじめに、前時までの活動内容の振り返りを行った。児童は意欲的に発電方法のメリット・デメリットを調べて、自分が考える「日本にとって一番よい発電方法」とその理由を前時までに考えていたので、本時は交流活動を行うことを伝えると待ちきれない様子だった。まず、本時の目標は友達のことを取り入れて自分の考えをよりよくすることであることを伝えた。次に、交流活動の方法を確認した。

- 4人グループで順番に意見を出す。
- 誰か1人の「考えキャッチシート」を用いて、賛成・反対などの意見を出し合う。賛成・反対などの意見は付箋紙に書いてシートに貼る（賛成は青の付箋紙、反対は赤い付箋紙）。どの意見に対して賛成・反対なのかが分かるように矢印でつなぐ。
- 10分が経過したら、グループの他の友達の「考えキャッチシート」に切り替える。

その後、交流活動を開始した。

「太陽光発電は二酸化炭素を出さないし、普通の家庭にも置ける」という理由から、太陽光発電を選んだA児のシートでは、次のような交流活動が行われた。

- B児「確かに太陽光発電は二酸化炭素は出さないね。」
 C児「夜や曇り、雨の日などはわずかな電気しか発電できないから、向いていないと思う。」
 B児「確かに夜や曇り、雨の日などは発電できないね。」
 A児「でも晴れの日には充電できるからいいと思う。」
 D児「太陽が出ていない日には充電できないよ。」
 C児「それに最近は電化製品も多く、たくさんの電気を使うからベストな発電ではないと思う。」
 A児「でも少しは充電できるし、節約すればいい。」
 C児「晴れの日しか発電できない太陽光発電より火力発電など安定して発電できる方がいい。」
 B児「確かに太陽光発電は、晴れの日にはしか発電できないね。」

以上の交流を経て、A児は「太陽光がいいと思ったけど、今は火力がいいと思います。なぜなら、いつでも発電できるからです。」という考えをもった。

調べたことを基に意見を出し合って、それを基に自分の考えをよりよくしていくことができている。このような交流活動は、児童が友達のことを取り入れて自分の考えをよりよくするために有効であると感じた。

4 成果と課題

- 「資料かんたんカード」でメリット・デメリットを簡潔にまとめて多くの情報を集めさせたことで、自分の考えを書くのに役立つだけでなく、賛成・反対の意見に説得力をもたせることができた。
- 賛成・反対などの意見を付箋紙に書いて貼ったり矢印でつないだりさせたことで、話し合いの経過が可視化され、友達のことを取り入れやすかった。
- 最後に再び書いた自分の考えでは、多くの児童が友達の意見を取り入れたが、一部の児童は友達の意見を取り入れずに書いていた。これは、友達の意見が、本人も既に知っていることだったために説得力に欠けたことが考えられる。そのため、調べる内容をより充実させる必要がある。